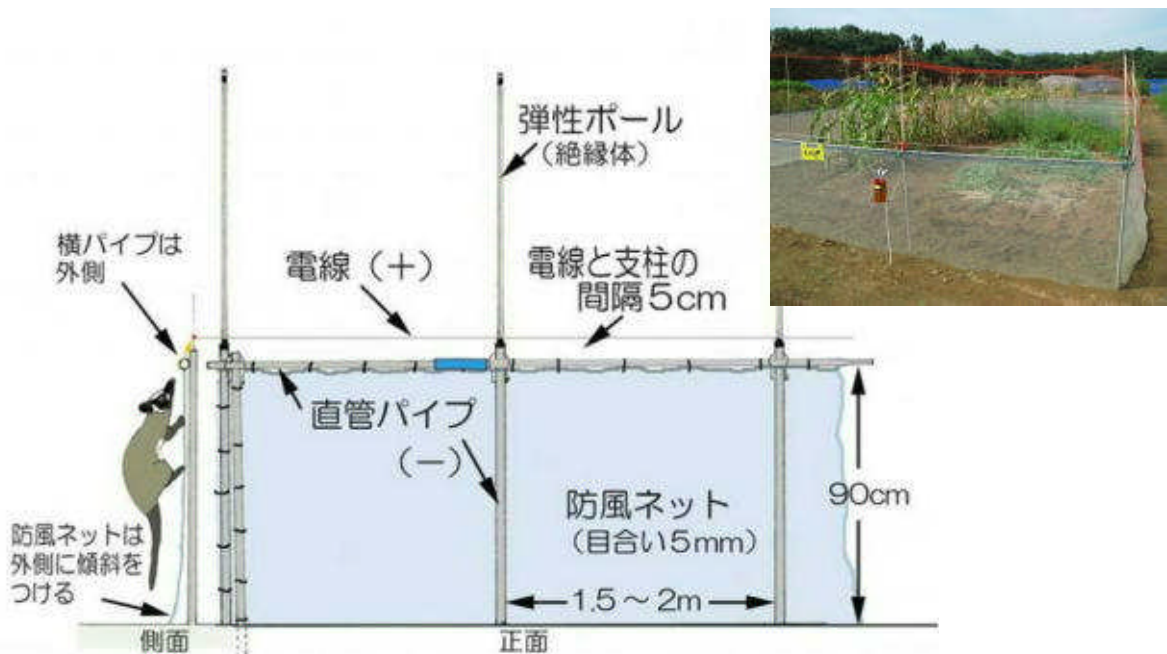


ハクビシンから畑を守る

近年、ハクビシンによる農作物被害が多発しています。野生動物の被害対策を効率よく進めるためには生活や行動パターンを知ることが重要です。中山間営農担当では、発信器を利用した調査や飼育個体による行動調査を実施しその生活を明らかにしました。その結果から収穫残や生ゴミなどエサとなるものの撤去や寝屋となっている建物に入れない対策をすることで被害が減少することがわかりました。また、農作物を守る技術として、登らせて感電させる電気柵「白落くん」を開発しました。「白落くん」は乾電池式のパワーユニットを使用するので安価で簡単にどこでも設置できる効果の高い電気柵です。



寝屋から出たハクビシン
発信器装着個体の行動域と寝屋



ハクビシン被害防止柵「白落くん」設置図

(茶業特産研究所 中山間営農担当 TEL 0494-22-0273)